

猶以村川市兵衛殿近日  
御当地へ御参府可被成由  
被仰越候、左候ハ、渡海之  
儀様子直段ニ可承候、市兵  
被帰候時分委細可申入候  
先年相渡し候證文ニ具  
可有御座候間、今以其通ニ  
舟御渡し可被成候、御仕合能  
可有之と存事候、追<sub>而</sub>御  
吉左右可承候、已上  
八月八日之御飛札拝見、先以  
貴様御無事之由目出珍重  
存候、然<sub>者</sub>四郎五郎儀去三月  
上旬より煩出し、同月十六日ニ  
相果被申候、各様も久々之  
御知人ニ候間可為御迷惑と察  
入候、跡職之儀ハ存生之内  
末之弟権八郎致養子、公儀  
相済候間可安御心候、病中ニも  
御老中様各御見廻被成  
色々御懇被遊外実難  
有四郎五郎被存候、権八郎  
儀今以四郎五郎同前ニ  
御老中様御懇御座候間可安  
御心候、御用之儀も御座候ハ、  
四郎五郎同前ニ可被仰越候  
少も如在申間敷候、将又来  
年より竹嶋之内松嶋へ貴様  
舟御渡し之筈ニ御座候間  
先年四郎五郎御老中様へ  
得御内意申候、渡海之番  
年相定市兵衛殿貴様へ  
證文相渡し置候間、村川殿と  
御相談候<sub>而</sub>其證文次第ニ  
可被成候、市兵衛殿も貴様も

其證文之通少も御違背<sub>者</sub>

有之間敷儀と存候、猶

期後音之時候、恐惶謹言

龜山庄左衛門

九月五日

□□（花押）

大屋九右衛門様